エコチルやまなし

こぴっと通信

2020 FEB

第16号

特集 子どもの成長発達に役立つスポーツの力
～「エコチルやまなしフォーラム2019秋」より～

エコチルやまなしの「追加調査」を紹介します！ …… 3-4
エコチルやまなし写真館「わが家のぼこっち大集合！」 …… 5-6
ほっとカフェ・エコチルやまなしからのお知らせ・編集後記 …… 7

特集 エコチルやまなしフォーラム 2019秋

子どもの成長発達に役立つ スポーツの力

エコチル調査がスタートしてから10年目に入り、2011年から2014年にかけて誕生したお子さんたちも、幼児期から学童期へと、日々成長しています。エコチルやまなしの今回のフォーラムでは、筑波大学体育系教授でソウル五輪女子柔道銅メダリストの山口香先生を講師にお招きし、学童期に差し掛かった子どもたちの体と心の成長発達に必要な運動についてお話しいただきました。講演要旨を紹介します。

皆さんは「ゴルフ」から何を学べると思いますか。ゴルフはスコアカードを自分でつけるスポーツです。何回打ったかは自分自身でカウントします。空振りしても1打は1打。しかし自分でつけているから、それを「素振り」と言って、カウントしないこともできる。スコアをつけるのに、自分を律する力が求められるんです。日本には「お天道様が見てる」という言葉があります。「お天道様」は「自分の良心」です。良き行いは常に良き行いとしてやりなさい、悪いと思うことは慎みなさいということなんです。

山口　香（やまぐち・かおり）先生

昭和39年生まれ。昭和53年、第1回全日本女子体重別選手権大会に最年少(当時13歳)で優勝し、以後、同大会10連覇を果たす。世界選手権では4個の銀メダルを獲得したほか、昭和59年第3回大会で日本女子として初の金メダル、63年ソウルオリンピックで銅メダルを獲得。翌年現役を引退した後は後進の指導に当たり、現在は筑波大学にて教鞭をとる傍ら、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）理事などとしてスポーツ全般の普及発展に努めている。

スポーツで学ぶ人間育成

「テニス」はどうでしょう。試合中、監督やコーチと呼ばれる人たちはコート内には入れません。選手は自分の力で勝ち上がることを求められます。親は近くにいると、子どもに「危ない」「行くな」「触るな」「動くな」などと、つい言ってしまいがちです。でもそれでは子どもは育たない。誰も手出しができない空間に放り込まれることで、自分で乗り越えていく。自分で判断して、自分で決断して、そしてやったことには結果責任が出てくる。これは社会に出たときに必ず役に立ちます。

「ラグビー」は、前に走っている人に投げたら反則、前にボールを落としても反則。つまり一生懸命ゴールラインに向けて走りながら、後ろの人にしかパスできないスポーツです。トライするまでに非常に時間がかかります。でもこれが社会の縮図なんです。どんなに正しいと思って走っても、世の中というのは一人ではうまくはいきません。時間や手間がかかったとしても、周りの人たちと協調して、パスをつなぎながら1つのゴールに向かって進んでいくということが大切なんです。

スポーツには正解がありません。「これが正しい」と教えることができたら、こんな簡単なことはありません。でもそうじゃないから楽しい。スポーツを通して世の中の仕組みを知り、生き方を知るということだと思います。

子どもの力を引き出す

皆さんは『はじめてのおつかい』というテレビ番組を見たことがありますか。小さい子どもに初めて一人でお使いに行かせる番組です。この番組では、子どもの持っている力を引き出します。寂しくなると突然歌を歌いだす子どももいます。普段は仲が悪いのに、お兄ちゃんが妹を気遣ったり、逆に妹がお兄ちゃんを元気づけたり。いろんな知恵を子どもなりに出してくる。それは親と一緒だったら絶対に出てこない、「持っている力」なんです。一人になったからこそ自分の知恵や、「自分が頑張らなきゃ」という気持ちが出てくるんです。

そして「乗り越える力」がまた素晴らしい。お使いの途中で、買った魚を落としてしまったり、みかんがちょうど坂のところでコロコロ転がっちゃったり…。子どもにとっての大冒険の中で、小さな事件、大きな事件を1つ1つ乗り越えていくわけです。お使いに行く時は泣きべそをかいて、すごく不安そうな顔をしているけれど、家に帰って来た時の子どもの顔といったら！みんな"超ドヤ顔"です。行く時とは人が変わる。それくらい力をつけて帰ってくるわけです。

私はスポーツと『はじめてのおつかい』はリンクすると思っています。親は心配で仕方ないかもしれないけれど、手を離さなければ子どもたちの力は出てきません。親が見ていないからこそ引き出せる力、乗り越える力というのがあるんです。スポーツでは結果責任は自分にあります。試合場に出たら誰も手出しができません。勝つか負けるかして、結果が出て帰ってくるまで手出しができない空間に、子どもを放り込む。そういう環境を作ってあげることで子どもたちの力が伸びていくんじゃないかなと思っています。

運動できる環境をつくる

今、日本のスポーツの環境はどうなのか。ぜひ近くの公園を見てください。運動禁止、ボール遊び禁止、大声禁止…。その結果、子どもたちは素直に、静かにゲームをしてます。今、日本の子どもたちが置かれている環境は、多かれ少なかれこんな感じなのではないでしょうか。昔は放っておいたら子どもは遊んだんです。でも今は環境的に難しくなってきている。スポーツをやらなくても、子どもたち同士で走ったり跳んだりできる環境があるならいい。でもそれができないのであれば、スポーツができる環境、体を動かせる環境に子どもを置いてあげるということが必要なのかもしれません。

体を動かすには、神経系の発育·発達が非常に大事だと言われています。神経系の発達が終わりかける4歳から8歳頃が「プレゴールデンエイジ」、そして「ゴールデンエイジ」と言われるのが8歳から12歳くらいまで、それ以降が「ポストゴールデンエイジ」です。神経系の機能が完成されるこの時期に色々な運動動作を体験させることがいいと言われています。エコチル調査のお子さんたちはちょうど幼稚園から小学校に上がる6歳7歳頃、まさにプレゴールデンエイジですから、いろんな運動をさせてあげてください。

幼少期からスポーツに親しむことは生涯に渡ってスポーツに親しむ習慣をつくることになります。大人になればなるほど習得するのが難しいので、いろんな体験をしておいた方が後々役に立ちます。

「スポーツは楽しい！」

そしてここが大事！スポーツは楽しいという記憶をぜひ与えてあげてください。

公園でよくサッカーやラグビーを教えているお父さんがいるんですが、とにかく厳しい。私は「ん～？」と思います。なぜかというと、楽しい記憶があるから長続きするんです。何かのためにという想いは大人になって欲が出てきてからです。基本的にはこの競技が好きだ、この競技をしていると楽しい、だから頑張れる、長続きする。

よくこういうお母さんいますよね。「バットは振らないと当たらないのよ。何なの、見逃し三振って」「なんであそこでバスしたの？行きなさいよ、自分で」。でも子どもは心の中で思ってます。「バット持ったことあんのかよ」「ボールなんか蹴れないくせに」…。私から言わせると、子どもの方が正しいです。親が言いたくなる気持ちは分かります。頑張らせる環境を整えてあげることは大切ですが、楽しいという気持ちを削がないでほしい。ラグビーの選手があんなに頑張れるのはラグビーが好きだからです。

よくアスリートが「努力は人を裏切らない」と言いますが、スポーツほど厳しいものはない。最後に勝つのは1人ですから。試合に出られない人だってたくさんいる。じゃあ、やらないのか。そうではありませんよね。叶わないかもしれないけれど、大事なのは夢を追いかける姿勢。自分なりのスピードで1歩ずつでも前に進むことの大切さを教えたい。夢を追いかけるためには、強い心と体が必要です。そのためにはスポーツが有益なのではないかと思います。

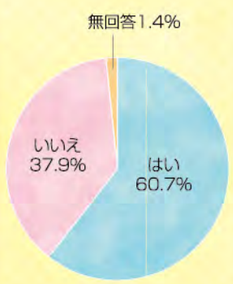
「You touch the future(指導者は選手の将来に触れている)」。あるサッカー指導者の言葉です。子どもたちを取り巻く大人が心に刻んで、子どもたちの未来が拓くように努力していかなければいけないと思います。

＜エコチル調査から＞

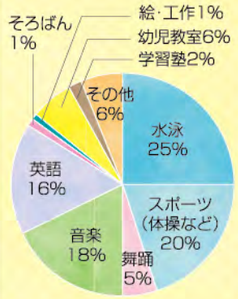
5歳半の質問票で「習いごとをしている」と答えた方は約6割、内容は水泳や体操、ダンスなど運動系の習いごとが約半数を占めました。神経系の発達が進むプレゴールデンエイジに、運動系の習いごとを始めているお子さんが多いことが分かりますね。

※2019年12月時点の暫定データ

何か習いごとをしていますか？
回答数2,656件



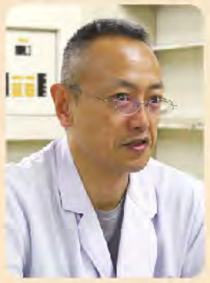
習いごとの内容は？
回答数2,929件
（複数回答）



エコチルやまなしの「追加調査」を紹介します！

エコチル調査には、参加者の皆さん全員に年2回の質問票に答えていただく全国共通の「全体調査」や、一部の参加者の方にご協力いただいている「詳細調査」のほかに、ユニットセンターが独自に実施できる「追加調査」と呼ばれる研究があります。追加調査は、ユニットセンターの研究者が計画を立て、環境省の承認を得てエコチル調査の参加者の皆さんから新たなデータを収集し、全体調査や詳細調査で得られた情報と併せて解析・検討することにより、お子さんの健康状態や、生活環境と成長発達との関わりなどをより詳しく調べることを目的としています。エコチルやまなしでは現在、4つの追加調査が進行中。調査の内容を紹介します。

追加調査 その1 おしっことうんちの研究



研究テーマ：胎児期および幼児期の環境要因が小児期の排尿機能および排便機能に与える影響

代表研究者：山梨大学医学部泌尿器科学講座
准教授　三井　貴彦 先生

赤ちゃんの時にはどの子もみんな、オムツにおしっこやうんちをしています。それが成長するにつれ、自分で排泄のコントロールができるようになり、トイレに行っておしっこやうんちを出せるようになります。しかし、お漏らし（尿失禁）やおねしょ（夜尿）が続いたり、便秘になってしまったりする子も少なくはありません。そこで、まずこういった症状の子どもたちがどのくらいいるのかを調べ、更に子どもたちを取り巻く環境と排泄との関わりを研究することにしました。

調査の方法は、年に1回、郵送で行うアンケート調査です。エコチルやまなしの参加者の皆さん全員に調査への協力をお願いしたところ、2019年12月末現在、約3,300人のお子さんの情報が集まってきています。たくさんの方のご協力のおかげで、とても順調に進んでいます。

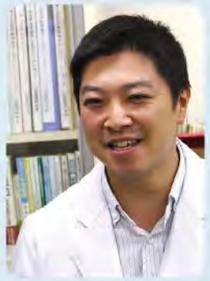
これまでの調査から、6歳の段階で、約20%のお子さんに尿失禁や夜尿があり、約15%のお子さんに便秘があることが分かってきました。そして、このような症状に影響する要因の1つとして、「トイレトレーニングの時期が関係しているではないか」という可能性が出てきました。これからさらに調査を続けていくことで、より詳しいことが明らかになると思います。

お母さんたちの中には、トイレトレーニングの開始時期や方法などに悩んだり、「紙オムツより布オムツの方が早く外せる」といった科学的根拠に乏しい情報に惑わされたりして、何を信じていいのか迷ってしまう人も多いのではないでしょうか。この研究を通して、子どもたちの排泄にどんなことが影響しているのかが明らかになれば、排泄への関わり方を小さいうちから工夫することで、尿失禁や夜尿、便秘で悩むお子さんを少なくすることができるかもしれません。

アンケートにお答えいただく際に、おしっこやうんちの悩みなどを記入して下さった方には、可能な限り相談に乗りたいと思っています。

少しでも気になる事があったら、ぜひご相談ください。

追加調査 その2 おうちのほこりと卵アレルギーの研究



研究テーマ：乳幼児期の屋内のハウスダスト中の鶏卵抗原が食物アレルギー発症に及ぼす影響

代表研究者：山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座
助教 小島　令嗣 先生

近年、卵アレルギーが発症する仕組みについては、「ほこりの中にある卵アレルギーの原因物質（卵抗原）が、皮膚から体の中に入ることで、症状が引き起こされる」という説が有力になっています。しかし、まだまだ明らかになっていない事が多いため、エコチル調査の詳細調査にご協力いただいている215世帯の参加者の皆さんにお願いし、実際に家の中のほこり（ハウスダスト）を集めて、卵抗原と卵アレルギーの発症の関係について調べることにしました。

調査は、お子さんの生活環境に関する質問票に回答していただくとともに、ご自宅の掃除機で2週間分のハウスダストを集め、大学に郵送してもらっています。2019年12月末現在、6歳の詳細調査で山梨大学に来てくださった79人のお子さんのうち、9割以上のご家庭が快く協力してくださっています。

大学に届いたハウスダストは電動のふるい機にかけて、分析しやすい小さい粒子に分別します。その後、卵抗原の濃度を測定し、お子さんの卵アレルギーの発症との関連などについて解析する計画です。

以前は、食物アレルギーのお子さんには、原因となる成分を含む食物を食べさせない「除去食」という対処法が主流となっていました。現在では、少量ずつ食べて体を慣らしていく「減感作療法」という免疫療法や、湿疹を保湿や薬でなくし、食物アレルギーの発症を予防するなどの取り組みが行われています。この追加調査で、ハウスダスト中の卵抗原と卵アレルギーの発症の関係性が明らかになれば、将来的にはお家の掃除方法を工夫することでも、卵アレルギーの発症を予防できるようになるかもしれません。

ハウスダストを分別するのはとても手間のかかる作業ですが、たくさんの方が協力してくださっていることを励みに頑張っています。アレルギーの予防につながる結果を出すことで、山梨の「ほこり」が「誇り」に変わるよう、これからも研究に邁進していきたいと思っています。

追加調査 その3 6歳の子どもの発達の研究

研究テーマ：6歳時詳細調査における発達の検討
代表研究者：山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座
教授 山縣 然太朗 先生

エコチル調査の全参加児約10万人のうちの5%にあたる約5,000人には「詳細調査」として環境測定、医学的検査、精神神経発達検査にも協力してもらっています。このうち、発達検査については子どもたちが2歳と4歳になった時に、「新版K式発達検査」を受けていただきました。この検査はお子さんの発達には順序や段階があるという考えのもと、「姿勢・運動」「認知・適応」「言語・社会」の3領域において、個々のお子さんがどのような段階まで到達しているかをみています。

全国で行われている6歳の詳細調査では発達検査は実施されていませんが、山梨大学では追加調査として、6歳の段階でも新版K式の手法を用いた発達検査を行うことにしました。幼児期の一般集団において、同じ発達評価尺度で経年的に子どもの発達を追跡した研究はほとんどなく、今後、発達に影響する環境物質や他の要因を検討するうえで重要な情報になると考えたからです。

2歳、4歳の詳細調査で、実際に発達検査に関わったリサーチコーディネーター3人が、引き続き検査者として6歳になったお子さんの発達検査を行っています。子どもの成長発達は、親御さんにとって大きな関心事であると同時に、時に不安や迷いをもたらす複雑な問題にもなり得るため、保護者への関わり方なども重要な課題として検討を重ねています。

子どもたちがそれぞれの個性を生かして健やかに発達していけるような環境づくりに貢献できたら…そんな思いをもって、お子さんたちと向き合っています。

追加調査 その4 8歳の子どものからだの研究

研究テーマ：エコチル調査学童期総合健診
代表研究者：山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座
教授 山縣 然太朗 先生

2019年7月から、小学2年生になったお子さんたちに山梨大学に来ていただき、身体計測やコンピュータによる発達検査を行う「8歳学童期検査」がスタートしました。この検査と一緒に行っている「総合健診」もエコチルやまなしの追加調査の1つです。2019年12月末までに296人のお子さんが学童期検査に参加し、そのうちの280人（94.6%）が総合健診にも協力してくださいました。

総合健診には、山梨大学医学部の小児科、整形外科、泌尿器科、眼科、歯科、内科、耳鼻科、社会医学講座の医師やスタッフ総勢約60人が関わっていて、腹囲・大腿周囲測定、運動器健診、重心動揺計検査、手のひらコピー、眼科健診、歯科健診、採血、採便などを行っています。総合健診で得られた貴重な検査結果や試料は今後、エコチル調査で蓄積してきたデータと併せて解析し、それぞれの研究者が立案した計画に沿って研究を進めていきます。研究成果が出てきたら、「こびっと通信」でも随時紹介していきますので、お子さんが8歳になりましたらぜひご協力をお願いいたします。

エコチルやまなし写真館

わが家のぼこっち 大集合

テーマ
もうすぐ
1年生です！

「令和」に改元されて初めての春が訪れようとしています。
この春小学１年生になるエコチルキッズは、これからはじまる新しい生活をとても心待ちにしていることでしょう。
素敵な写真がたくさん届きました。生き生きとした表情や真剣に取り組む眼差しなど、成長した姿に感動してしまいました。
みんないっぱい遊んで、笑って、そして勉強も頑張って、学校生活を楽しんでくださいね。

おさだ ひより
長田 陽梨さん

届いたばかりの大好きな青色のランドセルを背負いました！「小学校に行ったら〇〇する！」と話す娘の目はキラキラしています！

ちんざい もえか
鎮西 百恵華さん

保育園最後の運動会でのマーチング！生後9か月から通っていた保育園も卒園間近。小学校では保育園のお友だちがいないからちょっと心配😟

ないとう えいた　そうた
内藤 瑛太くん（右）・颯太くん（左）

カキ氷食べて舌が青色！

みずぐち りこ
水口 りこさん

オーダーメイドのランドセルを選びに行ったの。この色に決めた！
１年生になるのが楽しみです(*^-^*)

やまもと はると
山本 暖人くん

じいじとばあばに買ってもらったランドセルが届きました！

しらす ひろと
白須 裕人くん

幼稚園で参加したマーチングフェスティバルにて。年中の頃から1年間、初めての太鼓とフォーメンションを覚えて練習してきました。小さい体でよく頭張ったね🤝

わたなべ いのり
渡辺 衣乃里さん

ハロウィンイベントでお店の人に仮装してもらいました！
姉弟仲良く可愛い魔女に変身☆彡

しもむら せな
下村 星菜さん

ランドセルが届いてすぐに箱を開けて背負っていました!!　1年生になるのが楽しみなようです♪

つるた こもも
鶴田 胡桃さん

自分で選んで買ってもらったランドセル！背負った気分はルンルンです☆彡

のだ たかお
野田 高雄くん

小学校生活に喜びとドキドキでいっぱいな高雄くん！　お友だちがいないのがさみしいと言っていますが頑張ってお勉強するそうです!(^^)!

おさの うらり
小佐野 心凰さん

七五三。ずっと伸ばした髪の毛でお姫様のように結い、年代物ですがお気に入りの着物を着て神社へお参りに行った時の写真です。

はぎはら そうた
萩原 颯大くん

少し緊張気味の様子でしたが、職業体験で警察官になりました。将来の夢は警察官です！

ながさわ わく
長澤 羽空くん

保育園最後の運動会。暑い夏もマーチングの練習を積み重ね、立派にスネアドラムを披露しました。この一枚はやりきった自信ある表情です。「かっこいい1年生になるぞ！」と張り切っています。

ふかさわ そうし
深澤 蒼史くん

しまってあった兜を被って参上！　毎日戦いごっこを何故そんなにやりたいのか質問したところ『悪者が来たら俺がみんなを守ってやっつけるんだ！　その練習をしてる』と…。泣き虫だった子がたくましくなったなと実感した1枚です。

しんどう ゆづる
進藤　紘くん

お友だちとのお手紙などで文字をもっと上手に書きたいと練習しています。ひらがなの他アルファベットや簡単な漢字の読み書きもできるようになりました。

じんぐうじ はるか
神宮司 晴香さん

ランドセルは自分で選んだ大好きなオレンジ色♪　似あうでしょ～と幼稚園の制服でポーズを決めてくれました。

やぐち ひまり
矢口 陽莉さん

学校ごっこ！　お兄ちゃんと一緒に小学校に行くのを楽しみにしています(^^♪

お子さまの写真大募集　次回のテーマは「2020　スポーツを楽しもう！」

いよいよ今年の夏は東京オリンピックが開かれます。そこで、7月に発行予定の次号では「2020　スポーツを楽しもう！」をテーマに、エコチルキッズやご家族の皆さんの写真を大募集します！　お子さんが出場したスポーツ大会や運動会での雄姿、それを懸命に応援しているご家族の笑顔など、躍動感あふれる素敵な一枚をお送りください。元気いっぱいの『写真館』にして、私たちもオリンピックを盛り上げていきましょう！　たくさんのご応募をお待ちしています。

●応募方法：メールまたは郵送で受け付けます。
①お母さまのお名前　②お子さまのお名前
③お子さまの生年月日　④写真の説明、エピソード
⑤こびっと通信へのご感想やご意見、取り上げてほしい内容
などを本文にご記入の上、右記までお送りください。

●締め切り　２０２０年６月１５日(月)必着

〈 メールの場合 〉
件名に「こびっと通信写真」と入れて下記アドレスまでお送りください。
送付先メールアドレスcopit@yamanashi.ac.jp

〈 郵送の場合 〉
〒409-3898　山梨県中央市下河東1110
山梨大学エコチル調査甲信ユニットセンター
「こびっと通信写真」係 までお送りください。

こちらからもご応募できます。

※「こびっと通信」は、エコチルやまなしのホームページにも掲載します。また、お送りいただいた写真は返却できません。あらかじめご了承ください。応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

ほっとカフェ

春が近づいてきましたね!皆さん、いかがお過ごしでしょうか?…などと始めてみましたが、実は私がこの記事を書いているのは冬の入り口。日が暮れるのがぐっと早くなり、朝晩の冷え込みが厳しくなる頃です。そして私にとっては可愛い娘たち(犬·2匹)のお散歩をいかに暗くなる前に、かつできるだけ暖かい時間帯に行けるかで頭を悩ませる時期でもあります。

さて、そんな我が家の愛犬ですが、彼女たちはどちらも子犬の頃にやってきて、今は13歳ともうすぐ11歳のシニア犬になります。すでに社会人となった二人の息子たちがまだ小学生だった頃、主人と一緒に「ちゃんと世話するから〜」と懇願されて家族に迎えました。結局、一番のお世話係は私、なのですが…『子どもが動物を飼う時、あるある』ですよね。

でも、生き物を飼うのは大変なことですが、それ以上に学ぶことや得るものも多いことを実感しています。イギリスには、こんな言葉があるそうです。

子どもが生まれたら犬を飼いなさい。
子どもが赤ん坊の時、**子どもの良き「守り手」**となるでしょう。
子どもが幼少期の時、**子どもの良き「遊び相手」**となるでしょう。
子どもが少年期の時、**子どもの良き「理解者」**となるでしょう。
そして子どもが青年になった時、
自らの死をもって**子どもに「命の尊さを教える」**でしょう。

これは息子たちが大人になってから聞いた話ですが、子どものころ、1人で留守番をしている時、彼女たちは良い遊び相手になってくれていたようです。そばに寄り添ってくれるだけで、安心感も与えてくれていたと思います。愛犬と共に生活して大人になった息子たちをみていると、私の子育ては彼女たちなくしては語れないなぁと、このイギリスの言葉にとても共感しています。

おばあちゃん犬になった今、目は白くなり、段差がきつくなってきたり、ちょっぴり頑固な性格になったりと人間と同じような老いをみせていますが、変わらず私にとって一番大切な癒しの存在です。これからも元気で長生きしてもらうため、まずは適度な運動に冬のお散歩も頑張ります!!　(事務スタッフ·岡田あゆみ)

エコチルやまなしからのお知らせ

学年質問票をご返送ください!

エコチル調査の質問票は、お子さんが小学校に入学してからは、毎年お誕生日付近にお送りする「年齢質問票」と、学年ごとに一斉にお送りする「学年質問票」の2種類となっています。本年度の「学年質問票」は、昨年9月に1年生、11月に2年生の質問票をそれぞれ対象者のご自宅にお送りしました。まだお手元に質問票をお持ちの方は、わかる範囲で結構ですので、小学校で測定した身長や体重の記録をご記入いただき、ユニットセンターにご返送ください。貴重なデータになりますので、ぜひご協力をお願いします<(_ _)>

謝礼ポイントの受け取り期限が近づいています!

エコチル調査の質問票にご協力いただくと、1冊に付き1,000WAONポイント(1,000円相当分)をプレゼントしていますが、このWAONポイントには、受け取り期限があります。

2019年4月1日から2019年9月30日までに差し上げたWAONポイントは、2020年3月31日までにダウンロードした上で、電子マネーの「WAON」に交換していただかないと失効してしまいますので、対象となるポイントをお持ちの方はご注意ください!

【問合先】
エコチルやまなしWAONポイント専用ダイヤル
055-273-6775(平日9:00〜17:00)

新1年生に入学記念品をお送りします!

2020年4月に小学校に入学されるお子さんに、記念品としてそれぞれのお名前が印刷された「ネームシール」と文具セットをプレゼントします。4月上旬にご自宅に郵送いたしますので、楽しみに待っていてくださいね〜!

編集後記

こびっと通信16号、いかがでしたか?　特集では、昨年秋のフォーラムで山口香先生にお話しいただいた「スポーツの力」について紹介しました。子どものスポーツについつい口を出してしまうお母さん…それは私です!(>_<)　子どもたちの頑張る姿を見ていると、ついつい熱くなってしまい、いろいろ言って息子に怒られる…。図星過ぎて耳が痛い。今後は子どもの手を離し、楽しい記憶づくりを心掛けたいと思います!!(汗)

また、エコチル調査について理解を深めていただこうと、エコチルやまなしで実施している追加調査もご紹介させていただきました。皆さんに研究成果をお伝えできるよう分析を進めていますので、引き続きご協力をお願いいたします。

わが家のぼこっち大集合「もうすぐ1年生です!」企画はもう3回目となります。来年はいよいよ全員が小学生になりますね。子どもたちの成長とともに、子育ての悩みも変わっていくことと思います。今後も「こびっと通信」では皆さんに役立つ情報発信を心掛けていきますので、ぜひご意見やご感想をお寄せください。　(スタッフ一同)

◆エコチル調査甲信ユニットセンター
(エコチルやまなし)
代表電話 …… 055-273-1258
謝礼ポイント専用電話 055-273-6775
(いずれも土日祝日を除く 9:00〜17:00)

◆エコチル調査コールセンター
フリーダイヤル 0120-53-5252 (年中無休9:00〜22:00)

◆甲信ユニットセンターホームページ
http://ecochil-koushin.jp/
エコチルやまなし 検索

Japan Eco&Child Study
環境省 Ministry of the Environment
国立研究開発法人 国立環境研究所
山梨大学 UNIVERSITY OF YAMANASHI
山梨大学大学院総合研究部附属
出生コホート研究センター

ネオスペース2020年2月4,200部